
青い果実

清瀬 柚李

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

青い果実

【Nコード】

N5921J

【作者名】

清瀬 柚李

【あらすじ】

銀魂高校

ある授業中のサボリ

（前書き）

カップリングです
苦手な方はご注意ください

切っ掛けなんか無い。

ほんの少しの気まぐれで、人生って奴は変わるらしい。

今日だって特に可笑しなトコは一つもなかった。

相変わらず土方のヤローはマヨラーだったし、近藤さんはストーリーカーだったし、だん、じゃなくて銀八の目は死んだ魚の目だった。

山崎はミントンしてたし、グラサンは仕事探してた。

桂は意味不明だし、猫耳ババアはカタコトだ。

いつもの3-Zだ。

昨日みたいに土方さんをからかって、青筋たてて怒鳴られて、近藤さんに止められて、特に気にもしないで逃げて、何となく非常階段を登った。

今朝何となく買った飴を持って。

「……さみっ」

快晴つつても気温はギリギリ二桁だし、マフラーも無しに屋外に出るのはキツイ。

ぜってー今度土方コノヤローにマフラー買わせよう、と決意を決めて、高校によくあるネットを貼る為の土台に座る。

ケツから冷えていく感覚はなかなか慣れねエ感覚で、身震いして息をはいた。

うつすら白くなる息と、その奥に見える青空の蒼に目を奪われる。
ポッケに突っ込んだ飴の一つを剥いてくわえれば口一杯に広がる
莓味。

「…うげ…」

間違えて喰った甘ったるい味は俺の機嫌を急降下させる。

もう一個はカシスオレンジ。

軽く舌打ちして吐き出すため息の匂いまで莓。

いい加減イライラしてきた。

屋上のドア（常時解錠と言う素晴らしいオプション付き）の軋む
音が聞こえて、ちよつとばかりやんちゃな彼等が来ちまったか、そ
れとも銀八がダルソーにケツ搔きながら呼びに来たか。

5時間のチャイムが随分前に聞こえた今はどっちにしてもダルい。

たまにはサボってみようと屋上に来たわけだが、未遂に終わりそ
うだ。

ちよつとガチャガチャ聞こえて、ガチャガチャがガンガンに変わ
って、ガンガンがドンドンに変わって、やがて

「ホオウワチャアアア！」

バリーン、と蹴破られた。

「何アホ面してるアルか、サド」

「うつせえチャイナ。少しは女らしくしたらどうでイ」

アルミのドアを蹴破りやがったのはチャイナだった。

「フン。私みたいなイイ女はちょっとくらい猟奇的な方がお子ちゃまには丁度イイネ」

「誰がイイ女でイ」

「お前の目は節穴アルか？目の前に居るネ」

「精神科行きやがれイ」

「お前は眼科に行くヨロシ」

「……。そついやどうしてお前が居るんでイ」

つまらなそうに少し唇を尖らせて、銀ちゃんに頼まれたアル、と答えた。

コイツを出してくる辺り、銀八は相当めんどくさいらしい。

銀八の教師としての姿勢に若干疑問を感じていると、チャイナが俺の口元を指差した。

「何食べてるアルか？」

「…なんだっていいだろ」「気になるアル。…まさか、煙草アルか！？風紀委員が煙草アルか！？」

「黙りやがれチャイナア。飴でイ」

「銀ちゃんの影響アルか？」

「…どうでもいいだろイ」

今朝何となく買った事をバカチャイナにも分かりやすく説明して

やれば、チャイナ目が光る。

「一つ寄越すヨロシ」

「はア？」

「一つ寄越すアル！」

キャンキャンと煩いからカシスオレンジを出してやれば、チャイナはいそいそと剥いて口に入れた。

無意識に顔が緩むらしい。

「ニヤけてんじゃねエゼイ」

「ニヤけてないアル」

「いや、完璧ニヤけてるゼイ」

「ニヤけてないアル！」

全くコイツは煩い。

暫く飴を転がしていたチャイナは、何か思いついた様に薄ら笑いを浮かべ、俺の隣に座ってきやがった。

「何するんでイ」

「狭いアル。詰めるヨロシ」

我が物顔で居座るチャイナにため息をついて、詰めてやれば満足気に笑うコイツにイラッとしてちよつと意地の悪い質問をした。

「授業はどうするんでイ」

「授業？」

「戻らなくていいのか、って聞いているンでイ」

「お前は戻らないアルな？」

当たり前でイ。

「だから私も戻らないアル」

「はア？」

「何だか授業ダルくなってきたアル」

だから戻らないアル。
って、

「お前、優等生キャラはどうするんでイ？」「たまにはガス抜きも必要アル」

にっかり笑いやがった。

「…お前、メチャクチャでイ」

「お前の影響アル」

カシスオレンジを転がしながら、空を見てるコイツの蒼に目を奪われる。

切っ掛けなんか無い。

ほんの少しの気まぐれで、人生って奴は変わっちまうらしい。

（最悪だ）

内心舌打ちしながら、見上げた寒空には、飛行機雲が出来てた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5921j/>

青い果実

2010年11月2日09時47分発行